

R5年8月31日

第37回福岡肩・膝リハビリ研究会

発表者：渡辺雅大（肩） 宮本直季（膝）

第37回福岡肩・膝リハビリ研究会

ギヤッジアップ角度の増加は 肩峰骨頭間距離の拡大に影響するのか？ - 外転装具着用下での検討 -

渡辺 雅大¹ 烏山 昌起¹ 鶴田 崇¹ 長島 将太¹ 山口 亮¹
城 欣幸¹ 伯川 広明¹ 河上 淳一² 緑川 孝二³ 南川 智彦³

¹南川整形外科病院 リハビリテーション科
²九州栄養福祉大学 理学療法学科
³南川整形外科病院 整形外科



大腿四頭筋settingにおける 各筋の筋硬度変化

宮本直季¹ 伯川広明¹ 山口亮¹ 平岡大介¹ 市村竜治²
¹南川整形外科病院 リハビリテーション科
²南川整形外科病院 整形外科



肩関節の手術を行った後の患者さんは、ベッドの角度を上げることで痛みの軽減を訴えることがあります。

今回は肩関節手術後に用いる装具を着用した状態で、ベッドの角度を調節し、肩関節内部の構造に変化があるかどうかを検討しました。

今回の研究では、実際にリハビリスタッフの肩関節にエコーを用いて検証しましたが、ベッドの角度と肩関節の内部構造の変化は証明できませんでした。

今後は測定の対象や条件などを再度検討し、患者様により良い医療を提供できるよう今後も研究を続けていきたいと考えています。

渡辺 雅大

今回は術後早期や疼痛、炎症がある時などによく用いられるセッティングという大腿四頭筋の筋力訓練を行うにあたって、より効果的に大腿四頭筋を鍛える方法について研究しました。

今回はリハビリスタッフを対象に、エコーを用いて運動時における大腿四頭筋の筋の硬さを測定しました。

本研究の結果から筋力訓練の際に体幹・足部を固定することによって、筋の硬さが上昇することがわかりました。

今後は患者様などを対象に測定を行っていき、測定の結果から効率的な運動方法を確立していきたいと考えています。

宮本 直季

